



NEWS

2008 No.202

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

平成20年 理事長年頭所感

自らを変革、精進し、皆様のご要望に応えられるNGPを目指します 成長している若い力が、 希望と推進力になっています



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋岳彦

明けましておめでとうございます。

平成20年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国経済は、緩やかな回復が続いていると言われておりますが、いわゆる「サブプライム」問題が世界景気に影を落とし、原油価格の高騰を招くなど、年後半は全般的に先行きの不透明感が増すようになりました。これまでも指摘されていた輸出産業を中心とした企業活動と国民経済のズレはさらに進み、企業規模や地域による格差が拡大し、多くの中小企業は景気が回復していることを実感するに至らない現状にあります。原油高騰に加え、建築基準法の改正にともなう住宅着工の遅れなど、景気動向の不安要素が拡大した1年だった、と言えるだろうと思います。

自動車業界においても、東京モーターショーで需要を喚起したにもかかわらず、新車販売の減少に歯止めがかからず、登録車343万3千台、軽自動車191万9千台と、前年水準を割り続けるという厳しい1年でありました。

新車販売の低迷は、今後使用済自動車として排出される車両の量と質に大きな影響をもたらすために、リサイクルパーツ業界にとって看過できるものではありません。自動車リサイクル法の施行で、使用済自動車の流通形態が大きく変化し、仕入台数の減少や価格競争の激化などを招いてきましたが、新車販売の減少が将来、さらなる競争激化をもたらすことは確かなことと考えています。

この激変期にあたり、私どもNGP協同組合は昨年10月の総会で新体制を構築し、新たな一歩を踏み出すことになりました。景気全般の見通しが厳しく、市場環境が激変しただけで、自らの変革を遂げながら循環型社会形成とお客様への「お役立ち度」を高めることに努力してまいります。皆様からも更にご指導いただき、リサイクルパーツの認知度向上の為の啓蒙活動と使用済自動車の適正処理を進め、業界の発展に努めてまいりたいと思います。

基本とすることは、NGP三大信条の第一に掲げる「お客様第一」です。従来に増して高品質のリサイクル部品の提供に努める一方、納品率を高めるために、システムのオープンな活用や自動車整備・車体整備事業者団体の皆様が使いやすいシステムの改善に取り組むことを検討しています。

CO₂排出にともなう地球温暖化問題は、待ったなしの状況に置かれています。一般ユーザーの方も関心の高い問題ですが、接する機会が少ないために、リサイクル部品がCO₂排出の抑制につながることを認識されている方は、残念なことにまだまだ少数のようです。

NGP協同組合は、早稲田大学、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会と共同でリサイクル部品のCO₂削減効果に関するデータベースを作りました。これをツールに、リサイクル部品の利用が環境に良いということを積極的にアピールし、活発な市場形成を図って

いく所存です。

先行きの不透明感は高まっておりますが、NGP協同組合においては、組合員の2代目を中心に若手経営者が成長し、委員会活動などで事業方針に沿って、NGP協同組合をけん引する活躍を見せるようになりました。将来に夢が広がる明るい話題に期待を寄せるとともに、内部の人材育成をさらに充実し、国内、海外へと組合活動を前進させていきたいと考えています。

こうした活動を通じて、自動車メーカー、自動車整備関連業界、損害保険業界、リース会社等の皆様とのご協力関係を更に深めさせて頂きながら、自動車の循環型社会においてその役割を認知されるNGP協同組合でありたいとの思いを強めているところです。

また、組合員の皆様には、一層のご理解とご協力をお願いし、風通しのよい組織作りにも努めてまいりたいと存じます。

関係ご当局をはじめ関係各位のご指導ご鞭撻を切にお願いするとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年の挨拶といたします。

NGP協同組合、最大の環境展「エコプロダクツ2007」に出展 エコカーなどと肩を並べて リサイクル部品のCO₂削減効果をPR



環境問題は重要な学習項目。元気いっぱいの小中学生が会場に詰めかけ、NGPブースも対応に大わらわだった

NGP協同組合は昨年12月13日～15日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれた国内最大の環境展「エコプロダクツ2007」に前年に続き、2年連続で単独出展しました。ブースは、自動車メーカーやタイヤ・部品メーカーなどが並ぶ区画で、昨年同様、自動車リサイクル部品業界ではNGP協同組合だけの出展となりました。

ブースでは、リサイクル部品の利用促進を前面に押し出し、製作したばかりのリサイクル部品PR用DVDをモニターに映し出すとともに、新品部品とリサイクル部品の販売



会期中、大企業と肩を並べて自動車リサイクル部品がCO₂削減につながることを来場者にしっかりPRした

価格の違いをディスプレイ表示しました。また、「くるマック」「くるんぱ」のくるマックキャラクターを描いたエコバッグを用い、その中に、リサイクル部品のCO₂削減効果の数値を示したパンフレットを入れ、リサイクル部品の活用が地球温暖化防止につながることを訴えました。開催3日間で用意した15000セットはすべて配りきりました。

初日、2日目と、課外授業の一環でエコプロダクツ会場を訪れる小中学生も多く、くるマック店やリサイクル部品への理解を浸透させるよう工夫した「くるマック環境クイズ」

も好評でした。クイズに答えてくれた人には、くるマックコールセンターのフリーダイヤルを入れた4色ボールペンを手渡しましたが、集中するときは、次から次へと訪れる小中学生への対応に追われました。

今回のエコプロダクツでは、自動車メーカーは、CO₂の排出抑制をPRする出展内容が多く、電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車などの展示を行っていました。また、タイヤメーカーもこころがり抵抗を減らしたエコタイヤを押し出し、燃料高の中での省エネ効果と、地球環境への貢献を訴えていました。

会場全体を見回しても、地球温暖化防止が緊急課題として押し出され、CO₂排出抑制につながる技術や手法の展示ウエートが高かったように思えます。そのなかで、NGP協同組合として使用済自動車の適正処理を訴えながら、リサイクル部品のCO₂排出削減効果を打ち出し、世界的な課題に応える姿勢を示すことができたのではないかと考えています。

エコプロダクツ2007ピックアップ

会場内を見ると、CO₂対策が目立つ。異常気象などはっきりとわかりだした温暖化の影響で、環境問題は温暖化防止のためのCO₂削減が重視されるようになりだした。資源リサイクルも大きな関心はあるが、現在は市況が良く、勝手に市場が動いている状況だ。



自動車リサイクル促進センターも出展

自動車リサイクル分野では、自動車リサイクル促進センターも出展し、自動車リサイクル法の浸透、PRに努めていた。ブースの中央にはAプレスを配置、使用済自動車の最後、資源リサイクルの出発点を見せていた



DOWAエコシステムは貴金属リサイクルをPR

金属精錬大手のDOWAエコシステムのブースのメインは「都市鉱山」。携帯電話にパソコンその他の基盤が高く詰まったオブジェはなるほどと思わせる。鉱山というより金鉱といってよく、ブース全体の演出もバブリーだった



秋に登場する日産のクリーンディーゼル自動車

エコカー乗車体験のコーナーでは、この秋発売予定のクリーンディーゼル車、日産「エクストレイル」ディーゼル車が、燃料電池自動車とともに並んでいた。「音も静かで煙も出ていない」と、試乗客の評価は上々だ



トヨタが開発を進めるプラグインハイブリッド

トヨタ自動車は、モーターショーで出展していなかった開発中の「プリウス」ベースのプラグインハイブリッド車を展示。一般家庭の電源で充電し、現時点では1充電で13kmのモーター走行しかできないが、30kmまで走行距離を伸ばしたいという

リサイクル部品業界で「グリーンポイントクラブ」設立 足並みそろえて修理に伴うCO₂削減効果をPR NGPの販売量だけでも年間9万tを超える排出削減

NGP協同組合は、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会（JAPRA）とともに、自動車リサイクル部品の利用に伴うCO₂排出削減効果を広くユーザーにアピールするため、「グリーンポイントクラブ」を立ち上げることにしました。クラブには、JAPRA非加盟の日本トラックリファインパーツ協会など2団体も加わり、リサイクル部品業界を挙げて、修理にリサイクル部品を利用することが地球温暖化防止に役立つことをPRしていくことにしています。

「グリーンポイント」は早稲田大学の環境総合研究センターとNGP協同組合、JAPRAが共同研究で取り組んできたリサイクル部品のCO₂排出削減効果をまとめたデータベースを基本にしたものです。リサイクル部品としてリユースする部品は、新たに製造される新品部品に比べると、CO₂排出は少なくなります。これをまとめたデータベースを利用して、自分たちがユーザーに供給しているリサイクル部品のCO₂削減効果を集計しながら、地球温暖化防止への貢献度を把握することにしています。

全体システムはまだ開発途上にありますが、精度を高め、対象車種・部品を広げて、購

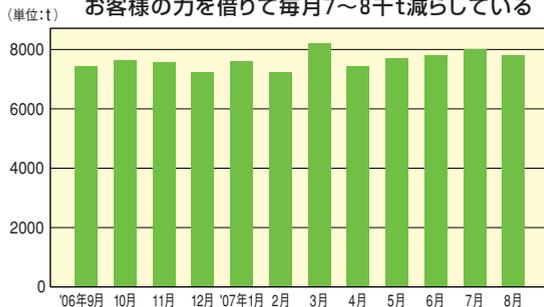


リサイクル部品はCO₂削減効果があることを積極的にPRするため、「グリーンポイントクラブ」を設立、記者会見をおこなった

入されたリサイクル部品の納品書・請求書にCO₂削減効果を明記し、ユーザーの皆様の温暖化防止貢献度がはっきりわかる仕組み作りを進めようとしていますので、ご期待ください。このデータは、「環境整備」のPRなどへも利用可能になります。

現在、NGP協同組合をはじめ12団体が、グリーンポイントクラブに加盟しています。今後私たちの取り組みとして、CO₂削減効果を前面に打ち出しリサイクル部品の積極的な普及活動に取り組めます。クラブの発足に伴い、CO₂削減効果を明確にしたリサイクル部品を「グリーンポイントパーツ」と呼び、

NGP協同組合全体の年間CO₂削減量は9万2千t
お客様の力を借りて毎月7～8千t減らしている



「環境ラベル」の取得を目指します。

どのくらいの削減効果があるかといいますが、ドアパネルを例にした新品部品とリサイクル部品のCO₂排出量の差は20～30kg程度とわずかなものです。しかし、「チリも積もれば山となる」との言葉通り、前期（2006年9月～07年8月）のNGP協同組合による年間CO₂削減量は9万1723tに達します。これは、東京都渋谷区の面積に等しい15.3km²の温帯林が吸収するCO₂の量に等しいものになります。都心に広大な雑木林が復活した姿を想像してみてください。温暖化防止のために、すごい積み重ね効果があることが分かります。



（有）佐藤商事・佐藤正晴社長が荒川町（新潟県）町議に当選

ニュース 4月に村上市に合併する荒川町を思って、締め切り直前に立候補

（有）佐藤商事の佐藤正晴社長が、昨年11月18日に投票が行われた新潟県荒川町の町議選に立候補し、当選しました。荒川町は、今年4月に山北町、朝日村、上林村とともに村上市と合併します。「合併前の町議選が無風だと、合併後の地域発展にも支障が起こる」（佐藤社長）との思いから立候補したそうです。

荒川町の議員定数は14人。公示直前まで定数通りの立候補届け出しかなく、無風と思われていましたが、届け出締め切り日に佐藤社長が立候補し、一転選挙になりました。佐藤社長と同様、「無風はいかん」と思う人がもう

1人いて、先に届け出ていましたが、2人の立候補者が譲り合うという樁事の末、佐藤社長が出馬することが決まりました。

選挙運動期間は11月13日から17日までの6日間ですが、ぎりぎりの立候補だったため、ポスターも選挙カーも用意できず、選挙運動は最後の2日間に電話による票の掘り起こしをただけだそうです。15人の立候補者のうち新人は佐藤社長をはじめ3人。選挙の結果、得票は157票で14位での当選でしたが、準備期間がないことを考えると、驚くほどの善戦です。

市町村合併のため、町議在籍期間は今年3月

末までの4カ月間あまりですが、佐藤社長は「自分を育ててくれた荒川町を大事にしたい。町村合併で町名は消えるが、豊かな自然は残る。自分が投じた一石で、合併後もこの地域の民意形成が活発になればうれしい」などと話しています。



育ててくれた町の発展を思い、ぎりぎりのタイミングで町議選に出馬した（有）佐藤商事・佐藤正晴社長

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北海道	有限会社ボールド (変更後は株式会社ボールド)	組織変更・移転	株式会社ボールド 〒099-0878 北海道北見市東相内町664番地2	平成19年12月3日
九州	有限会社鹿児島パーツ	住所表示	〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田5071-2 (市町村合併により「川辺郡」→「南九州市」)	平成19年11月14日

立ち寄りたくなる「くるマック店」独立店舗が続々登場

(株)テラダパーツ、(株)マルトシ青木で新店をオープン

廃車買い取りの「くるマック」店の独立店舗が中部、東海地区で相次いでオープンしました。昨年11月12日に愛知県刈谷市末広町に(株)テラダパーツが「くるマック刈谷店」を、また12月5日に静岡県静岡市駿河区新川に(株)マルトシ青木が「くるマック静岡中央店」をオープンしました。

くるマック刈谷店は、岡崎市と刈谷市を結ぶ県道48号線沿いで、JR東海道線の東刈谷駅近くにあります。大きなくるマックのキャラクター看板が印象的な店舗で、敷地540㎡、事務所70㎡で21台の駐車スペースを持ちます。くるマックの要員は、寺田裕二店長以下2名。将来はエンドユーザー向けリサイクル部品販売にも力を入れたいということで、本社から部品のフロント業務の一部を同一事務所に移転しました。

営業時間は午前8時半～午後8時まで、祝日のみを定休日とし、土日にも基本的にオープンします。くるマックのティッシュとともにチラシをポストイング、認知度アップに取り組みました。「廃車買い取り専門店のニーズは必ずあると思って出店した。さらに知名度アップを図って

いきたいが、反応がいろいろあって面白い」と寺田店長は話しています。

一方、くるマック静岡中央店は、JR静岡駅の近く、国道1号線に面した新幹線の高架下に店舗を構えています。事務所面積は66㎡、店舗の前には3台分の駐車スペースを持つほか、4台ずつ自動車を止めることができる駐車場を2カ所、店舗の並びで借りています。

事故車、使用済自動車の買い取り業務をメインとし、将来的には自動車リサイクルに関連したさまざまな情報発信を行いたいということで、「エコリフレッシュ館」という愛称をつけました。リサイクル中古部品から新品、中古のカーナビやオーディオ、あるいは工具やバッテリー



大きなキャラクター看板が、幹線を走る自動車にアピールしている「くるマック刈谷店」と寺田裕二店長



新幹線のガード下に目立つ色彩。何かあるぞという雰囲気「くるマック静岡中央店」と瀧本貴幸店長

などの物販も行ないます。ラジコンカーなどの輸入雑貨もあり、お客様に楽しんでもらう事務所作りを行なっています。「早くお客様に認知されるようがんばりたい」と話す瀧本貴幸店長と女性事務員の態勢で、毎週水曜日を定休日とし店舗を運営します。

くるマックの独立店舗は、新潟、北信越などにもあり、NGP協同組合員の努力でブランド浸透が図られています。

プレゼントクイズ 第1回 ベース車を当てようクイズ



協力:日本自動車大学校

写真のカスタマイズカーのベース車は何かを当ててください。正解者の中から抽選で3名様にLEDライト付きビクトリノックスをプレゼント!!

ヒント1

70年式。リアのフィンには関係ありません。



ヒント2

フロントのヘッドライトは移植しました。



ヒント3

T社製。和製ビッグセダンです。



ベース車が何か分かった方は、下記の応募用紙に回答と必要事項を記載し、FAXで「ベース車を当てようクイズ」係までお送りください。応募締切は2008年2月25日到着分までとさせていただきます。正解と当選発表はNGPニュース3月号。

■下記の応募用紙に回答と必要事項を記載しFAXをお送りください。

「ベース車を当てようクイズ」係				回答	
応募用FAX番号 03-5475-1209 ※FAX番号はお間違えないようお願いいたします					
お名前		年齢	歳	職業	
ご住所	〒			電話番号	() -

※記載いただいた内容は賞品の抽選・通知・発送のほか、今後の本サービスの参考とするためにのみ使用させていただきます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201